

# 格助詞「で」の多義性と現代における意味機能について

## —「コーヒー構文」における格助詞「で」の意味機能についての考察—

津吉 裕子

### 【キーワード】

コーヒー構文、格助詞「で」、交替可能性を否定しない、許容レベル、配慮と投げやり

### 【要旨】

本稿は、複数の格助詞が可能である場合で、あえて格助詞「で」を選好して使用する構文を「コーヒー構文」と定義し分析をしたものである。用例分析と日本語母語話者によるアンケート調査結果により「コーヒー構文」の定義を明確にし、「コーヒー構文」の格助詞「で」の意味機能が【様態】の派生用法であり【選択肢の中から選択する】という意味用法が含意されていることを解明した。さらに「コーヒー構文」における格助詞「で」の意味機能には、【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】というスキーマが形成されており、プロトタイプは【投げやり】、拡張事例は【配慮】となることを示した。そしてこの「で」の使用条件は、【受け入れ可能状態】の容認度が低い時に使用され、話し手の【決定権】の有無によって、「で」を使用する心的要因が変化することや、【決定権】があるときは【配慮】となり、【決定権】がない時には【投げやり】という意味用法になることも明らかにした。

## 1. はじめに

日本語学習者にとって、助詞の習得は困難を有するが、特に「で」に関しては、格助詞の働きだけでなく、〈な形容詞〉の連用形の「で」や接続助詞の「て(で)」も混在するので、学習者にとっては意味や用法の使い分けが難しいところである。

また、日本語母語話者にとっても以下の(1)における「で」の意味用法について、他の助詞との使い分けの説明をすることは簡単ではない。

(1) 「コーヒーでお願いします。」

(2) 「コーヒーをお願いします。」

(『ことばの研究』<sup>1</sup>)

<sup>1</sup> 「ことばの研究」NHK 放送文化研究所：最近気になる放送用語「コーヒーでお願いします」？ (<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/167.html>)、以下「ことばの研究」とする。

「お願いします」の述部に対して無標な助詞は、(2)のように「を」であるが、実際には(1)のような「で」の使用もよく耳にする。

(3) (イタリアンレストランで)

店員：「ランチのお飲物は？」

客：「コーヒーで。」

(名大コーパス<sup>2</sup>data029)

(3)の客の発話においても「コーヒーをお願いします」、「コーヒーにします」、「コーヒーがいいです」といった文への置き換えが可能だが、あえて格助詞「で」が使用されている。

本稿では、(1)や(3)のように複数の格助詞が可能である場合で、あえて格助詞「で」を選好して使用する構文を、「コーヒー構文」と呼ぶことにする。また、(3)のように述部を省略し、格助詞で終わる短い文も「コーヒー構文」に含めることとし、双方を分析の対象とする。

なお、格助詞「で」とまちがえやすいものに、冒頭でも述べた〈な形容詞〉の連用形の「で」(4)と判定詞<sup>3</sup>「だ」の活用の「で」(5)がある。

(4) 使い方がふくぎつで、わかりません。

(みんなの日本語初級Ⅱ：114)

(5) ミラーさんは28さいで、独身です。

(みんなの日本語初級Ⅰ：136)

本稿では、これらの格助詞ではない「で」については分析をしないことを定義する。

## 2. 先行研究における格助詞「で」の多義構造

### 2-1 「で」一般について

表層格と深層格の対応関係から格助詞の基準をまとめたものに、国立国語研究所(1997)が挙げられる。「で」格を7、8つの表層格に分類し、それらをさらにいくつかの深層格に分類した。

菅井(1997)は、「で」格は主要な格成分との関係が動詞によって変化しないことを解明した。

また、間淵(2000)は「で」格の意味拡張を通時的に調査し、「場所→様態・手段→動作・原因」と派生が進んだことを示した。

森山(2001)は場所の「に」格は「が」格と独立的に対峙し前景的であるのに対し、場所の「で」格は場所を背景的に示すことを解明した。さらに森山(2008)では「で」格のスキーマは、前景を構成する動作連鎖全体に対して背景を示し、プロトタイプは場

<sup>2</sup> 『名大会話コーパス』、以下「名大コーパス」とする。

<sup>3</sup> 「トムは留学生 {だ／である／です}」のように、名詞と結合して述語を作る「だ」「である」「です」は判定詞と呼ばれ、「だった」「で」などのように活用する。

所用法で、そこから他の用法に意味拡張したと主張した。それに対し岡（2007）は、「で」格は場所用法だけではなく、モノ用法からもそれぞれ意味拡張し、場所用法から【時間・原因・様態】、モノ用法から【道具・材料・手段】へと意味拡張したと主張した。

また、盤若（2015）は「で」格の深層格カテゴリーをまとめた。そして「で」格は述部で表されている行為や変化、事態、状況を成立させる機能を表すと主張した。

しかしこれらの先行研究での分類では、「コーヒー構文」の「で」の意味機能はどの用法なのか、断定しにくいことがわかった。

## 2-2 「コーヒー構文」の「で」の分類について

菅井（1997）では、「で」格を6つに分類しているが、「コーヒー構文」の「で」はその中の【様態】用法であると思われる。また、森山（2008）は5つのカテゴリーに分類しているが、その分類においても【様態】のカテゴリーにおける【対象の様態】であると思われる。しかし発話者は「飲み物をコーヒー（という状態）で。」という意味で様態を示すために発話しているわけではないと本稿では考える。

一方辞書での分類として、『明鏡国語辞典〈第2版〉』では、「コーヒー構文」の「で」は『「…でいい」』『「…で構わない」』『「…で差し支えない」』などの形で、次善や最低条件の意を表す」という意味用法に該当するが、「…でいい」などの特定の文型の場合のみの使用に限られる点で、「コーヒー構文」の「で」の用法すべてを説明しきれていないと思われる。

また日本語教育に関する参考書での分類として、『外国人のための日本語例文問題シリーズ7助詞』と『日本語文法整理読本』では、「コーヒー構文」の「で」は、「遠慮・謙遜・十分である」という意味用法に該当している。しかし、「コーヒー構文」の「で」がすべて〈謙虚〉というカテゴリーに分類されるとは思えない。

以上のことから格助詞「で」は、研究者によって様々なカテゴリーで意味機能が分類されていることがわかった。また「コーヒー構文」の「で」は、【様態】カテゴリーからの派生用法であるが、従来からの分類や意味用法では、「コーヒー構文」における格助詞「で」の意味機能について説明できないことも明らかになった。

## 2-3 「で。」で終わる「コーヒー構文」について

李（2002）は、格助詞で終わる広告文の特殊性について研究した。李（2002）は、格助詞で終わる文は単なる述語の省略ではなく、送り手の存在感を薄れさせたり、述部述語に付随するモダリティ部分も省略されるので表現を和らげたり、受け手は文脈によってさまざまに解釈することができると述べた。

また、杉村（2004）は、格助詞で終わる広告コピーに見る「に」と「へ」の使い分けについて研究している。杉村（2004）は、格助詞で終わる文には、述語がないため格助詞の意味が前面に出てくると述べた。

李（2002）、杉村（2004）のいずれの先行研究も、文末に使われる格助詞は最も無標の格助詞であり、有標的に使われる格助詞（つまりコーヒー構文の「で」）についての分析はなされていない。しかし、「コーヒー構文」の格助詞「で」で終わる短い文の特徴にも、同様の特徴があるのではないかと筆者は考える。

さらに「コーヒー構文」の特徴の一つとして、(3) のような格助詞で終わる短い文の場合でも、不自然さが無いことが挙げられる。

(3) (イタリアンレストランで)

店員：「ランチのお飲物は？」

客：「コーヒーで。」

(再掲)

しかし、(3) 'の場合の「～を。」は、格助詞で文が終わっても不自然さはないが、(3) ”の「～に。」や (3) ””の「～が。」は言いにくい。

(3) ' 客：じゃあ、コーヒーを。

(3) ” 客：\*じゃあ、コーヒーに。

(3) ”” 客：\*じゃあ、コーヒーが。

以上のことから、「コーヒー構文」における格助詞「で」で終わる短い文は、単なる述部の省略や言いさし文ではないことがわかる。つまり、あえて「で」を使用することによって単なる【様態】ではなく、話し手の何らかの意図を含意していることが示唆される。

そこで次章では、格助詞「で」と交替関係のある格助詞と、意味機能を比較して考察する。

### 3. 分析

#### 3-1 「コーヒーをお願いします」—格助詞「を」との比較

(6) これ、お願いします。

(みんなの日本語初級 I : 91)

(7) A : 熱いのと冷たいのとどちらがいいですか。

B : 熱いのをお願いします。

(みんなの日本語初級 I : 101)

格助詞が省略された(6)と格助詞「を」を使用した(7)はいずれも「コーヒー構文」の「で」と交替関係がある。そこで、格助詞「を」の意味機能について考えてみる。

(8) 山に登る。山の斜面を登る。

(9) 丘に/を登る。

(10) 坂を登る。

(森山 2008 : 236)

森山（2008）では、格助詞「を」と「に」の違いを（8）～（10）の例文で示した。森山（2008）によると「山」>「山の斜面」>「丘」>「坂」のように、格助詞に前接するガ格参与者の足元の範囲は狭まるにつれて「に」から「を」がふさわしくなると述べている。これらの森山の考察により、格助詞「を」の意味機能にはガ格参与者の対象物の焦点を絞る働きがあることがわかる。本稿ではこの働きを格助詞「を」の【焦点化】と呼ぶことにする。

次に「～。」、「～を。」「～で。」を使用した例文を分析する。

(11) (バーのカウンターで)

バーテンダー：何にしますか。

黒岩：(メニューも見ずに) 水割り。

(『大都会』：1976)

(12) (とんかつが食べたくなり、とんかつ屋に入る。)

店主：(向こう隣の客に) へい、お待ち。チキンカツ。

井之頭：〈チキンカツ。そういう手もあるな。〉<sup>4</sup>

店主：ご注文は何になさいますか。

井之頭：〈迷ったときは両方だ〉 ミックスカツ定食をお願いします。

(『孤独のグルメ』：2012)

(11) でメニューも見ずに注文をしているのは、店に入る前から注文するものを決めていたか、または行きつけの店でいつもと同じものを注文するからであると考えられる。ゆえに注文したいものに格助詞をつけない「名詞。」という言い切りの形が使用されたと考えられる。

一方(12)では、主人公はとんかつが食べたくなくて店に入り、他の客が注文したチキンカツも食べたくなくてミックスカツを注文している。また〈迷ったときは両方だ〉の文脈から、このミックスカツはまさに自分が今食べたいものであるといった強い意向が読み取れる。つまり「を」を使用した形は「名詞。」の形と同様に、格助詞「を」の【焦点化】の働きで注文したいものは「他でもないこれだ」という強い意向が伴う際に使用されていることがわかる。

一方この井之頭が「で」を使用する場面がある。

(13) (広島焼風お好み焼き屋に入り、メニューを眺める)

店員：麺はうどん、そば、どちらにしますか。

井之頭：そばで。

(14) (井之頭は何を食べたいのか決まらない状態で、とりあえずメニューの種類が多そうな喫茶店に入る)

<sup>4</sup>主人公井之頭の独り言は〈 〉で示す。

井之頭：(メニューを眺めて)〈だめだ、全然決まらない〉

(店員が近づく)〈まずい……〉

店員：ご注文はお決まりですか。

井之頭：あ、すみません。もう少し待ってもらっていいですか。(中略)

(散々迷った末)〈迷ったときは一番上のものだ。ポークジンジャー。決定。〉(それでも他の客の料理を見て)

井之頭：すみません。わくわくセットのナポリタンで<sup>5</sup>、ハンバーグでお願いします。  
(ともに『孤独のグルメ』：2012)

(13) は2つのものから1つを選んで注文するシーンだ。井之頭は「で」を使用している。さらに選択肢が増える場合が(14)である。井之頭が見ているメニューには驚くほどの種類があり、なかなか注文が決まらないといったシーンだ。悩んだ末に「ポークジンジャーに決定」と言った後で他の客の料理を見て、最終的には「ハンバーグで」とあえて「で」を使用している。選択の余地があるということは「他のものに代用することも否定しない」ということを意味する。つまり「で」は【焦点化】を意味する「を」に対して【脱焦点化】の働きがあることが考えられる。

それではどのように「を」と「で」を使い分けているのだろうか。これまでのことから「お願いします」の述部に呼応する格助詞「を」と「で」を使い分ける場合には、以下の理由が挙げられる。①選択するものが決まっている場合、格助詞「を」を使用する傾向がある。「を」の持つ【脱焦点化】の働きで「注文したいものはこれだ」という強い意向を表している。②選択肢が2つ以上ある場合は格助詞「で」を使用する傾向がある。「で」の持つ【脱焦点化】の働きで「注文したいものはこれだが他のものでも代用は可能だ」といった意向を表している。

### 3-2 「コーヒーにします」—格助詞「に」との比較

(15) 食事は和食と洋食とどちらににしますか。

和食にします。

(みんなの日本語初級Ⅱ：158)

(13) (前略)

店員：麺はうどん、そば、どちらににしますか。

井之頭：そばで。

(再掲)

(15) で導入される文型「～にします」の形で学ぶ日本語学習者は、(13)の「コーヒー構文」の「で」に戸惑うことが多い。本節ではこの「で」と交替関係がある格助詞

<sup>5</sup> この「で」は連用中止形についた「で」ともとれるうえ、〈て形〉の言いさしに「お願いします」が付いたものともとれるが、本稿では格助詞「で」であるという立場をとる。

「に」について意味機能を確認し、「で」を使用した文とどのように意味区別できるか考察する。

杉村（2002）による格助詞「に」の意味用法の分類では、(15)「和食にします」の「に」は〈一方向性を持った動きの着点の表示〉カテゴリーにおける【目的】の用法であると考えられる。

そこで、格助詞「に」と「で」の使い分けについて考察する。

(16) ここに車を止めないでください。

(17) ここで車を止めないでください。 (ともに作例)

(16)における「に」は【移動の着点】という意味用法である。つまり「ここ」は、車が駐車されている最終的な地点であり、「車が止めないでほしいところに駐車されている状態」といったニュアンスがあると考えられる。一方(17)の「で」は【動作をしている場所】といった意味を表す。つまり運転手は何かあればすぐ移動できる状態がイメージでき、「車を止めないでほしいところに停車している状態」であることが考えられる。したがって「で」は【まだ最終地点に到着しておらず動作をしている途中】といったニュアンスが「コーヒー構文」の「で」の考察に応用できる。

(18) (ケーキ屋で)

F093: 何しよう。はよ決めようって感じかな。

F101: うん。じゃあ私ね、ミルクレープにする。 (名大コーパス: data080)

(19) IC02: 何がいい。

IC03: じゃあ、ウーロン茶で。 (日本語会話コーパス: T013\_014b)

(18)の「に」の意味機能は【着点】の拡張事例である【目的】であるため、最終決定に到達したことを意味すると考えられる。つまり「ミルクレープに決めた」という強い意志が感じられ、不可逆的なニュアンスが読み取れる。一方(19)における「で」の意味機能は、まだ最終地点に到着しておらず動作をしている途中であるため、最終決定に到達する前の検討中であることを表す。つまりここでの「で」の使用は「絶対にウーロン茶でなくてはならないわけではなく、他の飲み物に変える可能性を否定しない」という意味を持っている。

これまでのことから、「何にしますか」の応答で格助詞「に」と「で」を使い分ける理由は、【最終決定】の意志を表す場合には「に」を使用し、【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】場合には「で」を使用することが明らかになった。

### 3-3 「コーヒーがいいです」—格助詞「が」との比較

(20) (深夜、友人 A 宅でテスト勉強をしているとき)

A: 何か飲む?

B: コーヒーがいい。ちょっと眠くなっちゃった。 (作例)

(21) IC02: 何がいい。

IC03: じゃあ、ウーロン茶で。 (日本語会話コーパス: T013\_014b)

(20) における「いいです」の述部に呼応する格助詞は「が」が一般的だが、(21) のように「で」の使用も『日常会話コーパス』の中にあらわれている。

そこで、格助詞「が」と「で」はどのように使い分けるのか考察する。

(22) 今夜は鍋がいい。鍋。味が濃くないやつ。 (BCCWJ: PB59\_00484)

(23) A: 酒か? コーヒーか? 何にする?

B: コーヒーでいい。迷惑でないなら。 (BCCWJ: LBa9\_00027)

(22) における「が」は、森山 (2008) の「が」の分類において【排他の取り立て】という意味用法である。つまりここでの発話は「今夜一番食べたいものは鍋だ」というニュアンスが強い。一方 (23) の B の発話は「必ずしもコーヒーでなければならない」といった強い希望は感じられない。後続の「迷惑でないなら」という文脈からもわかるように、「手を煩わすなら他の簡単なものでいい」といった気遣いが伺える。

これまでのことから、「が」を使用する場合は【排他の取り立て】の用法で「強い希望」を意味し、「で」を使用する場合は【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】といった意味機能があることがわかった。

### 3-4 「で」のスキーマとネットワークカテゴリー

交替可能な格助詞との意味機能についての比較を行った結果、「コーヒー構文」の「で」には一貫して【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】という意味機能があることが分かった。これにより「コーヒー構文」における「で」のスキーマは【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】ことであることが認められる。

ところで二宮 (2000) では、「で」の意味用法を「お茶でけっこうです」「私でよければ喜んで」「それでいいです」の例文を用いて【遠慮・謙遜・十分である】という分類で示した。それに対して盤若 (2015) は、「で」自体にはこれらの意味は含有されておらず、「けっこうです」「よければ」「いいです」の述部から【遠慮・謙遜・十分】という意味が表出されると述べた。その理由として (24) a. の「これがいい」では、複数の中から「いい」と思うものを限定しているが、b. の「これでいい」は「いい」という述部が【許可・容認】という心的状態が成り立つ条件を表しているからだと述べた。



- (24) a.これがいい。  
b.これでいい。

(盤若 2015 : 255)

しかし、述部が同じ (25) (26) の例文はどうだろうか。

(25) 妻：今日の晩ごはん、どうする？

夫：〈時間も遅いし、昨日の・・・〉<sup>6</sup>カレーでいいよ。

(26) 妻：今日の晩ごはん、カレーしかないのよね。

夫：〈またか・・・〉カレーでいいよ。

(ともに作例)

これらはともに夫の発話は同じだが、ここでの「で」は文脈によって【配慮】<sup>7</sup>とも【投げやり】<sup>8</sup>とも受け取ることができる。(25)で「で」を使用している理由は文脈にもあるように、冷蔵庫に昨日のカレーが残っているのを思い出し、もう時間が遅いので、妻が今から調理しなくてもいいように夫は気遣いを表している。つまりここでの「で」は、【配慮】と表現する。一方(26)で「で」を使用する理由は文脈にあるように、最近カレーが続いていたため今晩はもうカレーは食べたくないが、「カレーしかない」状況ではそれに甘んじる気持ちを表している。つまりここでの「で」は、【投げやり】と表現する。

以上のことから、「コーヒー構文」における「で」の多義性についてまとめてみる。多義語をモデル化したものに、Langacker (1987) の提唱したネットワークモデルがある。

図1は山梨(2000)が、Langacker (1987) の図における矢印を修正したものである。

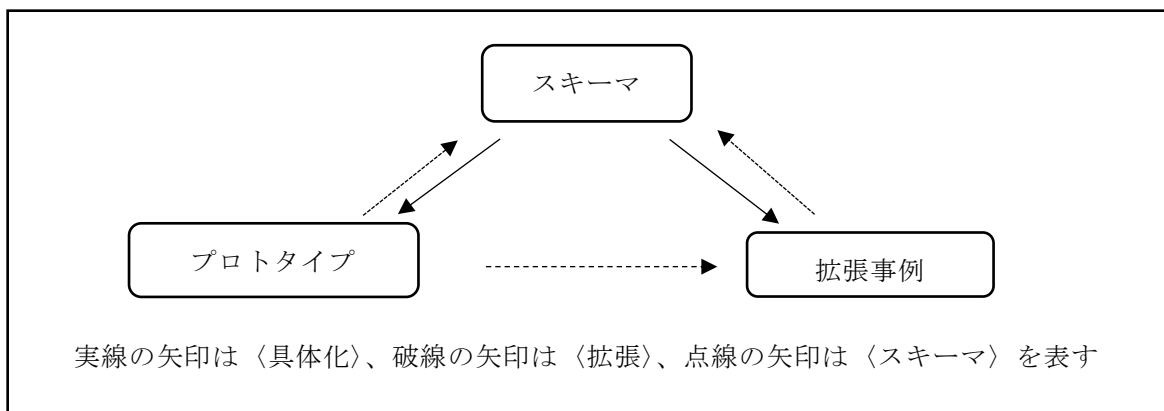


図1 山梨(2000 : 181)におけるスキーマ・プロトタイプ・拡張事例の関係

<sup>6</sup> 〈 〉内は心的会話を表す。

<sup>7</sup> 本稿では発話者が「で」を使用する際に抱く心的状態に基準を置くと定義する。

<sup>8</sup> 本稿では気遣いや配慮に対し非配慮的であることを【投げやり】と表現することとする。

そして図 1 をもとに、「コーヒー構文」の「で」のスキーマによるネットワークカテゴリーを図式化すると、図 2 のようになる。(矢印の線については図 1 と同様)

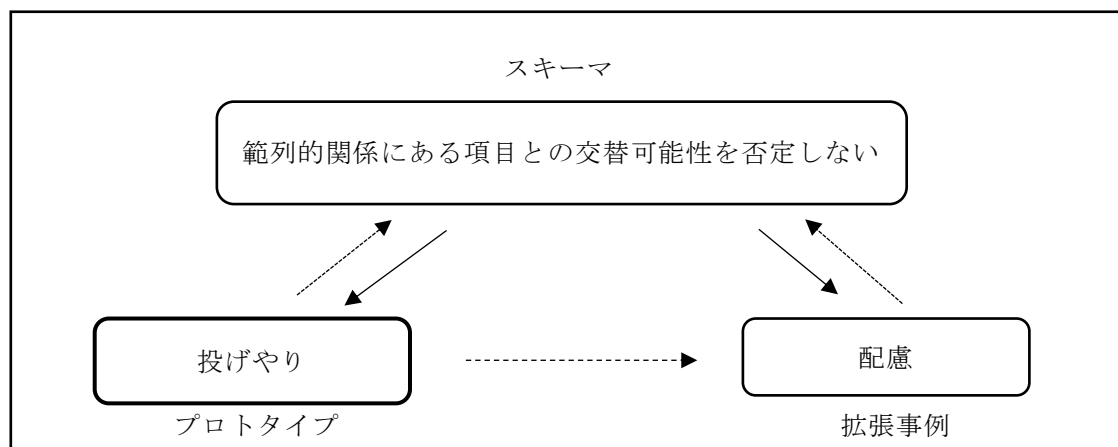


図 2 「コーヒー構文」における「で」のスキーマ・プロトタイプ・拡張の関係

### 3-5 「コーヒー構文」における「で」の意味機能

それではどのような条件の時に【配慮】や【投げやり】になるのだろうか。前節に掲示した (25) (26) の例文から、再度考察する。これらの例文で夫の発話の述部は同じだが、事態を決定する権利の有無で「で」を使用する心的状態が異なっている。(25) では妻の意向は特になく、夫に晩ごはんの【決定権】を譲っている。つまり【決定権】は夫にある。一方 (26) では、妻の発話には「カレーにしたい」という意向が含意されており、「カレーしかない」と夫に【決定権】を譲らないので、夫は決定権がない。

また、妻の提案に対して夫がどのくらい許容できるかによっても、「で」を使用する心的状態が異なる。(25) のケースで夫の心的状態がまさに今カレーが食べたい状態だった場合を a. とする。また、実はハンバーグが食べたい場合を b. とする。a. の場合は「晩ごはんはカレーである」という状況を許容する【受け入れ可能状態のレベル】は高い。反対に b. の場合は「晩ごはんはカレーである」という状況を許容する【受け入れ可能状態のレベル】は低い。

また、a. の場合で【決定権】がある場合を考えてみる。(27) では「で」が言いにくい。この場合は「カレーがいいな」などのように、「コーヒー構文」の「で」を使用しない発話となるであろう。一方 (28) の夫の発話でも「で」の使用は不自然である。まさにカレーが食べたかった時にカレーを提案された場合は、「いいね」や「そうしよう」などの同意表現が自然である。

(27) 妻：今日の晩ごはん、どうする？

夫：〈時間も遅いし、昨日の・・・一晩おいたカレーは格別だよな〉

{カレーがいいな／??カレーでいいよ。} (受け入れレベル高／決定権あり  
⇒焦点化)

- (28) 妻：今日の晩ごはん、カレーしかないのよね。  
 夫：〈朝からずっとカレーが食べたかったんだ〉 {いいね／そうしよう／??カレーでいいよ。} (受け入れレベル高／決定権なし⇒同意)  
 (ともに作例)
- (25) 妻：今日の晩ごはん、どうする？  
 夫：〈時間も遅いし、昨日の・・・〉 カレーでいいよ。(受け入れレベル低／決定権あり⇒配慮)
- (26) 妻：今日の晩ごはん、カレーしかないのよね。  
 夫：〈またか・・・〉 カレーでいいよ。(受け入れレベル低／決定権なし⇒投げやり)  
 (ともに再掲)

以上をまとめると表 1 のようになる。

表 1 「コーヒー構文」における「で」の意味機能<sup>9</sup>

		【受入可能状態】のレベル	
		高い	低い
【決定権】	あり <sup>10</sup>	(を/に/が)	配慮の「で」
	なし	(同意表現)	投げやりの「で」

つまり、「コーヒー構文」の「で」は【受け入れ可能状態のレベルが低い】という条件下で使用されることがわかる。そして「で」の話し手が【決定権】を持っていれば【配慮】に、持っていなければ【投げやり】になるのだと考えられる。

以上のことから、「コーヒー構文」の「で」の意味機能は以下の 2 点にまとめられる。

- ① 【受け入れ可能状態のレベルが低い】ことが「コーヒー構文」の「で」の使用条件。
- ② 話し手の【決定権】の有無で【投げやり】から【配慮】へと意味機能が変化する。

### 3-6 「で」を使用する理由

#### 3-6-1 『ことばの研究』<sup>11</sup>と塩田 (2018) による「で」の分析

『ことばの研究』では第 1 章で挙げた (1)、(2) の例文が挙げられている。メディア研究部の塩田は『ことばの研究』の中で、「『で』には本当は他にほしいものがあるが、とりあえずコーヒーでといった投げやりな感じがある」と述べている。

さらに塩田 (2018) では、(29) における下線部について「感じが悪いか」を問う調

<sup>9</sup> 表 1 における ( ) 内は「で」の意味機能ではないが、「で」の意味機能の理解のために明示した。

<sup>10</sup> 表 1 では【決定権】の有無で分けたが、仮に「あるともないともいえない状況」だった場合は、【配慮】と【投げやり】の中間地点も存在しうる。

<sup>11</sup> 注釈 1 を参照

査を行っている。

(29) Q14 知り合いの A さんの家に行ったときの会話としてお考えください。

(A さん)「お飲みものは、コーヒーでいいですか。」

(B さん)「はい、コーヒーでいいです。」

【感じが悪い 32%】(塩田 2018 : 39)

塩田 (2018 : 39) は『『でいいです』を用いることで、何らかの『不満』や『あきらめ』を滲ませてしまうことになる』と述べている。しかし調査結果の「感じが悪い」が 32%と、さほど大きな割合にはならなかったことにも言及している。

### 3-6-2 日本語母語話者を対象にしたアンケート<sup>12</sup>調査

塩田 (2018) の不備を補うべく、筆者は独自の調査を実施した。図 3、4 は格助詞「で」を使用する理由を探るために、53 名の日本語母語話者を対象に行ったアンケートの結果である。図 3 におけるアンケートの内容は、「店でコーヒーを注文する場合何というか」を問う問題である。問題 1 は「選択肢がない場合」、問題 2 は「選択肢が 2 択の場合」、問題 3 は「選択肢が 2 択以上の場合」である。

図 3 からは、「コーヒー構文」の「で」の使用が、飲み物を選ぶ選択肢が 2 つ以上ある場合に使用されていることがわかった。つまり格助詞「で」の意味機能には【選択する】という用法が含意されていることが明らかになった。

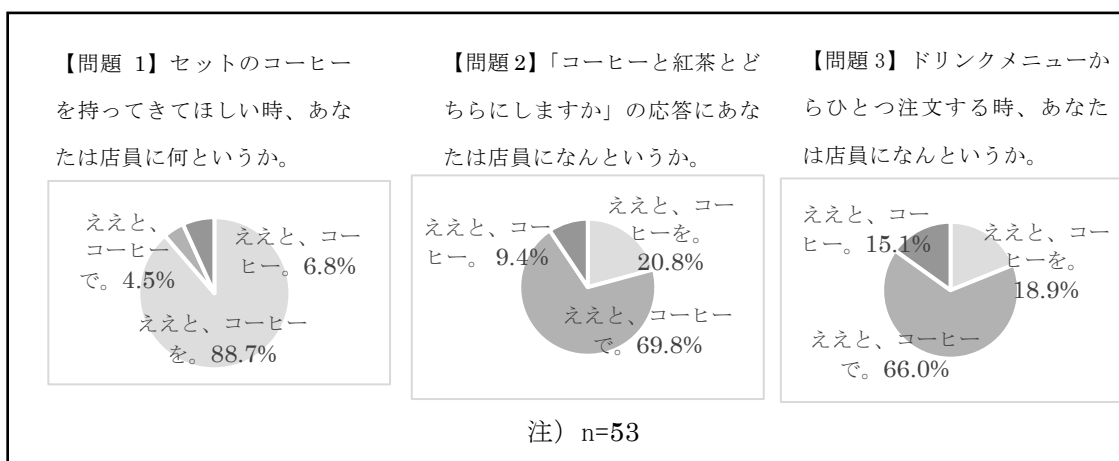


図 3 アンケート結果

また、図 4 におけるアンケートの内容は、「喫茶店」や「友人宅」でコーヒーを頼む

<sup>12</sup> アンケート調査の内容は後記に掲載。

際に、「を」と「で」の使用に対する心的要因について問う調査である。図4からは、喫茶店においても友人宅においても、「コーヒーを。」と「を」の使用は聞き手に【気遣いがありかつこだわりがある】と感じる人が約半数いることが分かった。また、喫茶店においても友人宅においても、「コーヒーで。」と「で」の使用は【こだわりはない】という点では共通していたが、聞き手に【気遣いがある】と感じる人と、【気遣いがない】と感じる人がともに36%もいることがわかった。

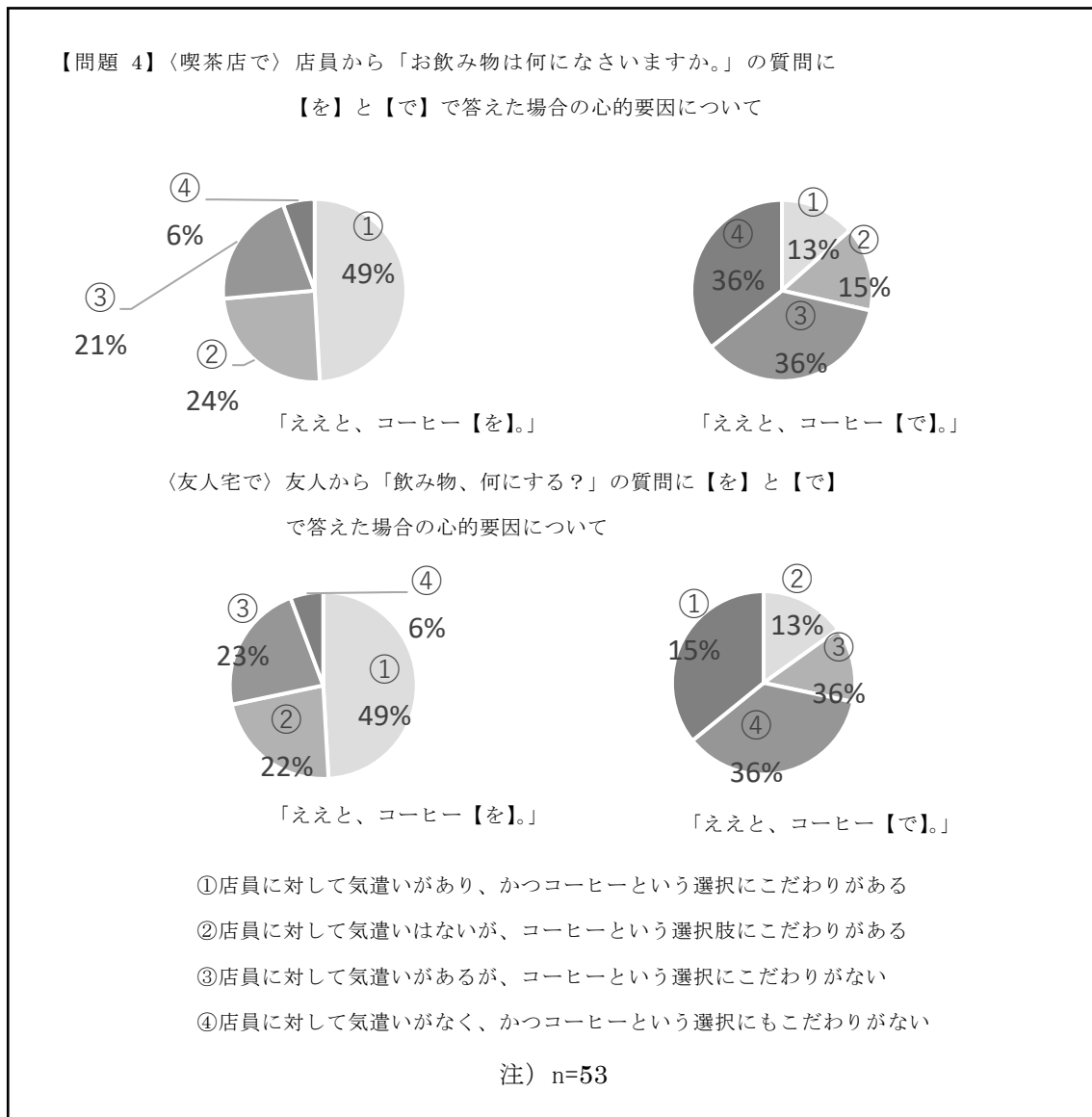


図4 アンケート結果(2)

これまでの結果から、「コーヒー構文」の「で」の意味機能には、『ことばの研究』の考察である「決して満足はしていない場合に使用する『で』」という用法だけではないことが明らかになった。

また、塩田（2018）の調査結果であらわれた「で」の使用に対して感じが悪いと感じる人の割合は、今回のアンケート調査でも【気遣いがない】と感じる人の割合と同等の結果が出た。しかし今回の調査では、聞き手に【気遣いがある】と感じる人の割合も【気遣いがない】の結果とほぼ同等の36%もいることがわかった。

つまり「コーヒー構文」の「で」を使用する理由には、【投げやり】な心的要因だけでなく【配慮】の心的要因も含まれることが明らかになった。

#### 4. まとめと今後の課題

本稿では「コーヒー構文」について定義し、「コーヒー構文」の格助詞「で」の意味機能についてまとめた。結果として①選択肢が掲示された時または、選択肢が想起される状況で、複数の格助詞が可能である中からあえて格助詞「で」を嗜好して応答する構文を、「コーヒー構文」と定義する。②この「で」のカテゴリーは【様態】の派生用法で、その基本用法に加えて【選択肢の中から選択する】という意味用法が含まれている。③スキーマは、【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】であり、プロトタイプは【投げやり】、拡張事例は【配慮】となる。④使用条件は【受け入れ可能状態】の容認度が低い場合に使用され、話し手の【決定権】の有無で心的要因が異なる。【決定権】があるときは【配慮】となり、【決定権】がない時は【投げやり】という意味用法になるという結果が得られた。

本稿では「コーヒー構文」における「で」の分析対象を、格助詞「で」のみに絞って調査を行った。しかし、近年「で」の使用が多用される現象は、本稿で分析対象外とした〈な形容詞〉の連用形の「で」や判定詞「だ」の活用の「で」、また〈て形〉の〈言いさし〉から大いに影響を受けている可能性も否定できない。これらの分析対象外とした「で」との関連性については、今後の課題<sup>13</sup>とする。

#### 参考文献

- 井口厚夫・井口裕子（1994）『日本語文法整理読本（解説と演習）』バベルプレス  
 北原忠雄編（2002）『明鏡国語辞典第2版』大修館書店  
 北川千里・鎌田修・井口厚夫（1988）『外国人のための日本語例文問題シリーズ7 助詞』荒竹書店  
 岡智之（2007）「日本語教育への認知言語学の応用：多義語、特に格助詞を中心に」『東京学芸大学紀要』58, pp.467-481, 東京学芸大学紀要出版委員会  
 国立国語研究所（1997）「日本語における表層格と深層格の対応関係」国立国語研究所報告,113  
 塩田雄大（2018）「この論文、わりにもいいかもしれませんね」～2016年『日本語のゆれに関する調査から②配慮表現～』『放送研究と調査』, pp.32-49

<sup>13</sup> 本稿は語用論的な視点に偏り、統語論的な視点からの分析が足りない点も課題とする。

- 菅井三実 (1997) 「格助詞『で』の意味特性に関する一考察」『名古屋大学文学部研究論集』, 127, pp.23-40
- 杉村泰 (2002) 「イメージで教える日本語の格助詞」『言語文化研究叢書. 言語文化研究叢書』 1, pp.39-55, 名古屋大学言語文化部
- 杉村泰 (2004) 「格助詞で終わる広告コピーに見る『に』と『へ』の使い分け」『言語文化論集』 26 (1), 名古屋大学言語文化研究会, pp.39-54
- 二宮喜代子 (2000) 「格助詞『で』の階層性についてー日本語教科書の分類と整理ー」『JALT 日本語教育論集』 5, 東京, 全国語学教育学会日本語教育研究部会
- 盤若洋子 (2015) 「格助詞『で』の研究ー深層格と包括的意味機能ー」 拓殖大学大学院言語教育研究科言語教育学専攻, 博士論文
- 間淵洋子 (2000) 「格助詞『で』の意味拡張に関する一考察」『国語学』 51, 国語学会, pp.15-30.
- 森山新 (2001) 「認知的観点から見た場所を表す格助詞デ・ニの意味・用法の違い」『日本語学報』 49, pp.95-106
- 森山新 (2008) 『認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得』 ひつじ書房
- 山梨正明 (2000) 『認知言語学原理』 くろしお出版
- Langacker, Ronald, W. (1987) Foundations of Cognitive Grammar. Vol.1, Stanford : Stanford University Press.
- 李欣怡 (2002) 「格助詞で終わる広告ヘッドラインに隠されたものー文の『述べ方』という視点からー」『ことばの科学』 15, 名古屋大学言語文化研究会, pp.5-22

## 引用資料

- 『ことばの研究』 NHK 放送文化研究所 :  
<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/167.html> -  
(最終閲覧日: 2021年12月10日)
- 『孤独のグルメ』 シーズン1, テレビ東京 (2012), テレビドラマ: <https://www.hulu.jp/>
- 『大都会』 シーズン1, 日本テレビ (1976), テレビドラマ: <https://www.hulu.jp/>
- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(通常版, 中納言):  
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search> (最終閲覧日: 2021年12月30日)
- 国立国語研究所『日本語日常会話コーパス』(モニター公開版, 中納言):  
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/cejc/search> (最終閲覧日: 2021年12月10日)
- 国立国語研究所『名大会話コーパス』(中納言) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/nuc/search>  
(最終閲覧日: 2021年12月30日)
- 『みんなの日本語初級 I』 第1版 (1998) スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語初級 I』 第2版 (2012) スリーエーネットワーク

## 添付資料

「日常会話」で使用される日本語についてのアンケート

実施日：2021年11月1日～11月7日

協力者：埼玉県内の大学学部生および日本語学校職員の計56名（うち日本語母語話者53名<sup>14</sup>）

実施方法：Googleフォームでアンケート配布・回収

### ◆ アンケート内容

①年代②性別・母語（日本語母語話者のみに調査を行うため）

#### ③問題1

食後にコーヒーが付いているセットを頼んだ。食事が終わったので、そろそろコーヒーを持ってきてほしい。あなたは店員を呼びました。あなたは店員に何と言いますか。

あなた：「( )。 」

以下の中からひとつだけえらんでください。

- ・ええと、コーヒーを。
- ・ええと、コーヒーで。
- ・ええと、コーヒー。

#### ④問題2

ランチセットメニューには、コーヒーか紅茶がついてくる。店員に注文します。あなたは何と言いますか。

店員：「コーヒーと紅茶とどちらになさいますか。」

あなた：「( )。 」

以下の中からひとつだけえらんでください。

- ・ええと、コーヒーを。
- ・ええと、コーヒーで。
- ・ええと、コーヒー。

#### ⑤問題3

ファストフード店でハンバーガーセットを注文します。あなたは何と言いますか。

店員：「セットのお飲み物は、こちらの【ドリンクメニュー】からひとつお選びください。」

【 コーヒー・紅茶・ファンタ・コーラ・ジンジャーエール 】

あなた：「( )。 」

以下の中からひとつだけえらんでください。

- ・ええと、コーヒーを。
- ・ええと、コーヒーで。
- ・ええと、コーヒー。

---

<sup>14</sup> アンケート調査内で日本語母語話者の結果のみを掲載した理由は、調査の目的が「日本語母語話者特有『で』の使用について」であるためである。



問題 4

以下では「コーヒー【を】。」と「コーヒー【で】。」を比較して考えてください。

【喫茶店で】

店員：「お飲み物は何になさいますか。」

あなた：「ええと、コーヒー（ ）。」

【友人宅】

友人：「飲み物、何にする？」

あなた：「ええと、コーヒー（ ）。」

「あなた」のセリフには、相手に対しての気遣いがあると思いますか。

また、コーヒーを選択することにこだわりがあると思いますか。

下の象限表から当てはまる数字をひとつ選んでください。

	気遣いがある	気遣いがない
選択にこだわりがある	1	2
選択にこだわりがない	3	4

- ⑥【喫茶店で〈を〉を使用する場合】1~4から一つ番号を選択してください。また、上記の問題について「なぜ、その番号を選びましたか」理由をお答えください。（自由記述）
- ⑦【喫茶店で〈で〉を使用する場合】1~4から一つ番号を選択してください。また、上記の問題について「なぜ、その番号を選びましたか」理由をお答えください。（自由記述）
- ⑧【友人宅で〈を〉を使用する場合】1~4から一つ番号を選択してください。また、上記の問題について「なぜ、その番号を選びましたか」理由をお答えください。（自由記述）
- ⑨【友人宅で〈で〉を使用する場合】1~4から一つ番号を選択してください。また、上記の問題について「なぜ、その番号を選びましたか」理由をお答えください。（自由記述）

（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程）